

# 貧困家庭の子支援 学芸大が研究拠点

## 実態調査、学生派遣も

東京学芸大(小金井市)に、貧困家庭の子どもの支援する方法を研究開発する「児童・生徒支援連携センター」ができた。5年計画で小中高校への実態調査をし、相談役に学生を派遣するなどして子供たちが経済的な理由で学業をあきらめずにすむ方法を探る。

調査は都内にある付属校や貧困家庭が多い地域の学校で行い、学生を相談役や学習支援に派遣する。付属校では経済的な支援策も含めた「パッケージ型支援」の実現を探る。学生に支援を経験させることで、現代の課題に向き合える教員を育てる狙いもある。

10日はセンター発足後初めてのフォーラム「経済的に困難な状況にある児童・生徒への教育支援を考える」が学内で開かれた。

首都大学東京の阿部彩教授は「信頼できる大人」の存在が必要だと指摘。貧困な環境にある子どもは貧困ではない家庭の子どもと比べて自己肯定感が低く格差があるが、教師との関係が良ければ差が縮まるとの調査結果を挙げ、「教師が貧困の防波堤になってほしい」と語った。

センターの柏原寛・准教授は、学生を都内の中学校に相談役として派遣した結果、授業中に廊下に飛び出

す生徒がいなくなった事例を紹介した。松田恵示センター長は「土俵から落ちた人を包み込む力が弱くなっている。教師が多忙になっており、地域や専門家がチームワークで進めていかざるを得ない」とまとめた。

(青木美希)

# むさしの

武蔵野支局

〒180-0006

武蔵野市中町1-9-5

第一中央ビル5階

☎ 0422-51-5531

fax 0422-55-6568

mail musashino-